

モードのジャポニスム



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

京都展

会期:1994年4月5日~6月19日

会場:京都国立近代美術館

主催:京都国立近代美術館

京都服飾文化研究財団

キュレーション:

内山武夫(京都国立近代美術館)

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

金井 純(京都服飾文化研究財団)

パリ展

会期:1996年4月18日~8月4日

会場:パリ市立衣装美術館(パレ・ガリエラ)

主催:京都市、京都服飾文化研究財団、

パリ市、パリ市美術館連合、パリ市立衣装美術館

キュレーション:

深井晃子(京都服飾文化研究財団)

カトリーヌ・ジョワン=ディエートル(パリ市立衣装美術館)

ファビエンヌ・ファルエル(パリ市立衣装美術館)

東京展

会期:1996年9月7日~11月17日

会場:TFTホール

主催:東京クリエイションフェスティバル実行委員会

京都服飾文化研究財団

キュレーション:

深井晃子(京都服飾文化研究財団)



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

ロサンゼルス展

会期：1998年4月5日～6月15日

会場：ロサンゼルス・カウンティ美術館

主催：ロサンゼルス・カウンティ美術館
京都服飾文化研究財団

キュレーション：

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

金井 純（京都服飾文化研究財団）

シャロン・S. タケダ（ロサンゼルス・カウンティ美術館）

ニューヨーク展

会期：1998年11月20日～1999年2月14日

会場：ブルックリン美術館

主催：ブルックリン美術館

京都服飾文化研究財団

キュレーション：

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

金井 純（京都服飾文化研究財団）

パトリシア・ミアーズ（ブルックリン美術館）



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

ニュージーランド、ウェリントン展

会期：2003年7月 日～10月 日

会場：テパパ国立博物館

主催：テパパ国立博物館
京都服飾文化研究財団

キュレーション：

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

アンジェラ・ラッシング（テパパ国立博物館）

ニュージーランド、クライストチャーチ展

会期：2003年12月 日～2004年4月3日

会場：クライストチャーチ・アート・ギャラリー

主催：クライストチャーチ・アート・ギャラリー
京都服飾文化研究財団

キュレーション：

深井晃子（京都服飾文化研究財団）

アンジェラ・ラッシング（テパパ国立博物館）



©The Kyoto Costume Institute, photo by Naoya Hatakeyama

概要

19世紀後半、日本美術が西欧に与えた影響「ジャポニスム」が、西欧モードにおいても重要な変化の要因をもたらしたことを初めて検証した展覧会。

19世紀後半、西欧各地で開催された万国博覧会を通じて、〈キモノ〉は女性たちの憧れとなり、1890年代のリヨンのテキスタイルには、日本の意匠が頻繁に登場しました。20世紀初め、モードが現代の開放的なものへと脱皮しようとしたとき、〈キモノ〉はポール・ポワレらが率いるパリのモードにそのシンプルな形とゆとりという点で、大きな影響を与えました。1920年代、マドレーヌ・ヴィオネは、着物の平面性という構造の特質を西欧モードに取り込みました。このような歴史的な過程を経て「ジャポニスム」は西欧モードの根底にまで影響を与えることになったのです。さらに1970年代以降は、日本のデザイナーの独自性に富むあらたな表現が世界で高い評価を受けています。「モードのジャポニスム」の展開を世界で初めて歴史的に検証した同展は、パリ、ロサンゼルス、ニューヨーク等でも開催され大きな反響を呼びました。

出展内容（京都展）

衣装： 122点
テキスタイル等： 37点
出展品総数： 159点

出展品を「日本のイメージ」「江戸の小袖」「ヤポンセ・ロッケン」「キモノ・コート」「YOKOHAMA - 輸出品」「テキスタイルと日本の文様」「浮世絵美人」「平面の発想」「境界を越えて」の9つのグループに分類。展示品が時代的ひろがりを見せているため、衣装そのものに焦点をおくアブストラクトなマネキンによる展示を中心としました。